研究授業の記録と振り返り（職員会議提示）

学年・指導者	研究授業	検討会
3 年 千葉・大内	6 月 26 日（金）5 校時 記録　小林　　写真　阿部	同日 司会　大内　記録　大沼
4 年 小林・大内	6 月 16 日（火）5 校時 記録　阿部　　写真　千葉	同日 司会　大内　記録　大沼
6 年 阿部・大内	10 月 22 日（木）3 校時 記録　千葉　　写真　小林	10 月 23 日 司会　教頭　記録　大沼

第１回

4 年研究授業（６月）

単元名「復興のために　できること」

小単元名「荒浜小の復興」

視点１　児童が主体的に取り組む事ができる教材の開発

成果　・これまで見過ごしがちであった「荒浜小学校」を見つめ直すことは，今年度最後の学校の教材として意義がある。

・支援してくれている人たちへの感謝の気持ちへつなげることができれば，子供たちにとっても達成感がある教材といえる。

課題　・１枚の写真（出会いの会）から，入学前の自分たちの知らない１年間を想像するのは難しい。写っている子供たちの心情や緊張感はなかなか伝わらない。

→写真や当時の状況の説明がもっとあると良かった。

→提示する写真の枚数を増やして，状況を理解しやすくする。

→今の朝会の写真と比較させる。（準備していたが，忘れた。）

視点２　学びを整理し，考えを深めていくことができる単元構想の工夫

成果　・震災後１年目（２年目）と今年（５年目）を比較させて，その違いや復興の様子をまとめるという単元の流れはよい。

課題　・「震災の様子を多くの人に伝える」という単元のゴールが具体化されていないので，子供たちの調べようとする意欲が湧かない。

→教師としての見通しを持ち，指導案の中にも明確に表す。

→児童にも早い段階で与えた方がいい場合もある。

→子供自身が何に向かっているのかをはっきり理解させて，学習に臨ませる。

・昔を知ることは難しい。

→教師の吟味された発問。

→子供に提示する何倍もの情報を教師は収集しておく。

・いろいろ出てきた「調べる方法」や「相手」を「整理・分析」する。

→調べる内容にふさわしい相手や方法を，子供自身に考えさせる。

その他

・Ｔ２の役割。

→エピソードを話す。板書。グループで話し合う際の声掛け。

→計画的に分担。指導案にも明記する。

第２回

３年研究授業（６月）

単元名　　めざせ　荒浜はかせ！

小単元名「あらはまカルタ」から学ぼう

視点１　児童が主体的に取り組む事ができる教材の開発

成果　・「あらはまカルタ」の良さを生かし，更により良い「新あらはまカルタ」を作るという学習に，子どもたちが生き生きと主体的に取り組むことができた。

・昔と今の貞山堀（実際に行った場所）の写真を比較することから導入したので，学習課題「未来の読み札はどうしたらできるだろう。」に素直に取り組むことができた。

・未来の札（白紙）を提示することで，子どもたちからは，「今からぼくたちが描くんだ。」という反応を引き出すことができた。パフォーマンスを含めて，子どもの関心を引き付け，真剣に取り組ませるきっかけが作ることができた。

課題　・本時では未来の「読み札」を作らせたが，「絵札」または，ただの「札」でも楽しい活動ができたと思う。願いを表す方法としてふさわしいのは何か，他の方法も考えてみたい。

視点２　学びを整理し，考えを深めていくことができる単元構想の工夫

成果　・「あらはまカルタ」を「昔・今・未来」の三つに分けたことで，三年生にとってもこれから何を作ればいいのかが分かりやすく，見通しを持った活動ができる。

・貞山堀の札を作りながら，「海の札が作りたい。」と，次への意欲を表していた。今後の活動を念頭において，活動している。

・ゲストティーチャーに荒浜の思い出を聞く中で，子どもたちは荒浜の良さや，地域の人たちの願いを汲み取ることができた。未来の札には「思い」や「夢」を盛り込みたいと考えたのは，事前の活動が基盤になっている。

課題　・自分もしてみたいことを札に読んでいたが，「どうしてしたいの？」と問い返せば，「昔はできたと聞いた。」と昔に戻ることができた。昔，今があって，未来があるというつながりが明確になった。

・最後は教師がまとめをしたが，子ども自身の言葉による振り返りが欲しかった。自分の学習をきちんと整理することができる。

・学習課題に対する見通しを一人一人記述させると，より深まっていく。一人で考えることから，他者の意見も受け入れられるようにしたい。

その他

・学習課題は「読み札を作る。」ではなく，本時の課題でよかった。総合はプロセスを学ぶ学習。作るための方法を考えることが課題。それに伴って，評価も「できた札」ではなく，その過程で行うことになる。

第３回

６年研究授業（１０月）

単元名　　荒浜と共に

小単元名　「復興のため　私にできること」

視点１　児童が主体的に取り組む事ができる教材の開発

成果　・昨年の６年生から引き継いだ事実や，荒浜探検で破れた横断幕の補修をしたこともあり，横断幕を作りたいという意欲は十分持って取り組むことができる教材といえる。

・早坂さんの話を真剣に聞いている様子からも，荒浜の人の思いを生かした横断幕にしようという意欲が高まったのが分かる。

課題　・4 代目の横断幕はこれまでと違って，荒浜小学校が閉校したあともずっと荒浜校舎と共に残るものだということも抑えが不足していた。

視点２　学びを整理し，考えを深めていくことができる単元構想の工夫

成果　・ゲストティーチャーとして早坂さんにお話を伺い，地域の人たちが荒浜小学校を大切に思っていることを知ることができた。そして，今後荒浜小学校に思いを持っている他の人たちに聞き取りをする流れは，荒浜の人みんなの思いのこもった横断幕を作るためによい構成といえる。

課題　・早坂さんの話を聞いて子供たちはとてもよい感想を持った。それを発表させ共有することができれば，もっと考えを深めることができた。

・早坂さんの話を聞くポイントを与えるとどの部分を横断幕のメッセージに生かしたらいいのかが捕らえやすかった。

・早坂さんの話が唐突だった。早坂さんの話を聞く前に，4 代目の横断幕の意味合いをはっきりさせると，なぜ早坂さんの話の必然性が理解できた。